

平成 30 年度 第 1 回 尼崎市総合教育会議 議事録

【日 時】 平成 30 年 8 月 27 日（月）午後 3 時～午後 4 時 30 分

【場 所】 尼崎市役所 北館 4 階 4-1 会議室

【出席者】 尼崎市総合教育会議構成員

稲村 和美	市長／座長
松本 眞	教育長
濱田 英世	教育委員
仲島 正教	教育委員
礪田 雅司	教育委員
徳山 育弘	教育委員

関係者（尼崎市総合教育会議設置要綱第 5 条）

森山 敏夫	副市長
中浦 法善	ひと咲きまち咲き担当局長
白畑 優	教育次長
西野 信幸	教育次長
能島 裕介	企画財政局兼教育委員会事務局参与

【事務局】 ひと咲きまち咲き担当局 ひと咲き施策推進部 尼崎大学・学びと育ち研究担当

【資 料】

- ・次第
- ・資料 1 尼崎市総合教育会議 構成員名簿
- ・資料 2 尼崎市の学力向上に向けた主な取組
- ・資料 3 主な教育施策
- ・資料 4 「あまっ子ステップ・アップ調査」進捗状況について
- ・資料 5 平成 29 年度「学力定着支援事業」について
- ・資料 6 平成 29 年度「アクティブ・ラーニング推進事業」について
- ・資料 7 平成 29 年度「教員指導力向上事業」について
- ・資料 8 尼崎市の長欠・不登校児童生徒への取り組み
- ・資料 9 尼崎市教育振興基本計画について
- ・資料 10 あまがさき・ひと咲きプラザの状況について

【次 第】 開 会

- 1 構成員及び関係者紹介
 - 2 今後の教育予算のあり方について
 - ・学力向上、不登校対策について
 - ・次年度以降の取組の考え方
 - ・その他
あまがさき・ひと咲きプラザについて、地域振興体制の再構築について
 - 3 報告事項
- 閉 会

- 稲村 それでは、総合教育会議を始めます。
次第2、今後の教育予算のあり方について、情報の共有と意見交換ができればと思っています。総合教育会議とは別に教育委員会が行われており、主要事業の報告は教育委員会内であると思いますが、市長部局と情報を共有させていただくことと、今後の予算や定数等にも関係すること、お互いの連携がより一層必要と思われる分野を中心に意見交換できればと考えておりますので、よろしくお願いいたします。
- 松本 (資料説明)
- 稲村 順番に意見交換をしていきたいと思います。
(1) 今年度からあまっ子ステップ・アップ調査を開始していくということとあわせて学力向上を中心とする学校教育について今後どう展開していくか、(2) 不登校対策、(3) 方向性を共有するビジョンづくりについて、いかがでしょうか。
(1) について、尼崎市の場合は、非常に学力の低位の子どもたちに手厚くしてきた傾向があるように思います。中間層が薄いのが尼崎市の特徴だったのですが、これまでの取組により、今では全国並みの学力分布になっています。
(3) は、学力が全国平均レベルになった今、これからの尼崎市の教育をどういったビジョンと理念で一層推し進めていくのかということですね。教育長の説明にあった「学力保障」というのは、「学力向上」より意欲的で、良い言葉だと思います。
- 仲島 「学力保証」は、目新しいことではありません。関西では、昔から同和教育を基盤にして「一人も見捨てない」ということを言い続けています。
- 稲村 時代が揺れ動く中で、改めて今の時代認識とそれに対する戦略と方向性についてもう一度議論するタイミングなのかもしれません。これは茨木市の例を出していただいているということですが、尼崎市には尼崎市の、これまでの経緯経過と今の課題認識があると思います。
- 松本 今、本市では全ての学校がアクションプランという学校単位で学力に関する課題解決を考え、独自に取り組むようにしています。各学校で独自に取り組むのもいいのですが、成果も出てきていますから、良い学校の取組を研究して取り入れてみる、ということも大切かと思えます。
- 濱田 アクションプランについて、最初は、なかなか手が上がらなかったものの、これが始まってから、どこの学校でも学力向上に向けて、「こんな事をやっています。」ということを実践して下さるようになってきました。
- 磯田 学力の上位層の子どもたちが市立高校へ来て、安心して高等教育が受けられるような体系を作る必要があると考えています。学区再編によって人気上がり、過去に設備投資をしたことが学校の魅力に繋がっているということも考えておくことが必要です。
- 稲村 市立高校の魅力向上は、これから都市間で、より明確になってくるでしょう。
- 磯田 市立高校のあり方として、上位層を掴むのであれば、真剣に制度改革を議論する必要が出てくるかと思えます。
- 松本 就学支援制度が拡充され、私学に進学する子どもも就学支援を受けられるようになりました。県立・市立・私立に関係無く、それぞれの存在意義を考えなければならない状況になってきていると思います。
- 稲村 本市では、「みんなの尼崎大学」と銘打って、まち中の学びをもっと盛り上げていこうという取組を進めています。社会教育と学校教育を分断せず、一体的に盛り上げていく取組を進めてきました。ここにアクセスして下さるのは、圧倒的に県立高校の先生が多い。私たちは県立だからとか、市立だからとかは関係無

く、協力をお願いしていますが、市立の先生からアクセスが少ないのは、寂しいです。

徳山 自分のこどもの頃を振り返ると、競争社会の代名詞的イメージで勉強をさせられてきましたが、競争で誰かを蹴落とすためではなく、目的を達成するために大学へ行って、資格試験を合格してということが分かってから気持ちがぐっと入っていきました。

その経験から言うと、いろんな職業の人の話を聞いてその職業が社会にどういう奉仕をしているのか、この職業に就くためにどういう能力が必要かということをお話してもらいたいと思います。

稲村 園田地区では、公民館と学校での試験的な取組として、地区内在住・在勤のいろんな職業の方を学校に招き、ワークショップっぽく子どもたちに語ってもらう事業があります。

磯田 小学校からそういうことをしていますよね。

稲村 他にもエーデルワイスさんのご協力で、パティシエが目の前でケーキのデコレーションしてくれるという出前授業をやってくださっています。そういう時にパティシエの方が、こういうケーキを作るには手先の技術だけじゃなく、例えば「いろんな美術作品を見て自分の感性を磨く」とか、「英語とか他の語学ができないと、一流にはなれないよ」とケーキ作りの見えないところの努力について話をしてくださいました。

私の感覚では、尼崎の小学校の先生は相当頑張ってる感じがします。中学校では生徒の管理に若干重さがある感じがします。

松本 小学校と中学校では、文化も全然違います。

全国的にも似たような傾向があると思いますが、小中学校で先生の人事異動をかなり頻繁にやっている地域もあれば、管理職の異動が最近が多いものの、平素から異動しないという地域もあります。

西野 中学校の進路指導の実態について説明します。中学校の進路指導は3年生になりますと、入試制度について学習をする機会を多く設け、もっと勉強しよう、という話になっていきます。個々の進路指導については、保護者懇談などを中心に、場合によっては2回3回と行い、生徒と保護者の希望をすり合わせながら、中3の最後の受験に向かうというような感じです。

稲村 広域になり、市外から尼崎市内の高校を受験することができるとともに、逆もあります。進路指導時に学校の平均点を見て、他市と比較するなど調節が必要となることはないですか？

西野 入試についての情報を得る中で、尼崎市内でこのくらいの成績であれば、市内はもちろん、市外の高校であっても、合格かな、ちょっとしんどいかなということが、尼崎市内の中学校では共有できています。

稲村 学校の平均点は、一人ひとりの受験には全く意味が無いということですね。それなのに今までは平均点で語られていますので、保護者の皆さんにはその辺りの誤解があると思います。

このことから、何が大切なのかを考え、今年度のあまっ子ステップ・アップ調査を予算化しました。一人ひとりの成績を毎年追いかけて見ていかないと、毎年対象が入れ替わる子どもたちの平均点で議論するのはなかなか難しいと思います。是非有意義な事業にしていきたいと思っています。

(2) 不登校対策は、教育委員会と市長部局とどんどん連携していこうと事業を始めています。時代の変化の中で、支援を必要としている子どもたちのために、どういったところに力を入れていくべきなのかということをお話していただければならないと感じています。

先日、フリースクール等の取組をされている方々に呼びかけて、話し合いを持ったそうですね。

松本 何ができるかはさておき、とりあえずどんな人たちがいるのだろう、という思いで声をかけさせていただきました。当日は、NPO や株式会社を含め、18 団体の方々に参加いただき、市内外で尼崎市の不登校の子どもたちを見てくださっていることが分かりました。

非常に有意義で、私も班に分かれてのワークショップに参加して議論させていただきました。

どんな議論かと言うと、学校の存在というものを大事に考えてくださっていて、例えば、学校に行けるなら行く方がいいと思っていながら、行けない子がいる。そんな子どもたちに居場所を作っていこうという考えでサポートしていただいているのですが、そういった取組が学校教育として認められるのか、認められないのかと。こういう話がこれから論点として出てくるのかなと思いました。

能島 こども自立支援担当が、来年に向けて民間と行政とで不登校に関するガイドラインを作っていこうとしています。その土台となるような意見をいただきましたので、今後はそれを取りまとめていくような状況です。

稲村 子どもたちの置かれている状況も多様化していますし、選択肢は多様な方がいいと思います。一つの形に最終的に押し込めるということがそぐわない時代だと思しますので、関わり方がお互い見える化されていて、連携できていることが望ましい形だと思います。ネットワークづくりの一步が踏み出されたということは大変喜ばしいことだと思います。

松本 参加者の方も驚いていました。こんなにたくさんの方がいらっしゃるのか、と。

稲村 (3) の教育のビジョンづくりについては、どう考えていますか。

松本 審議会を作るとなると、意外と時間がかかると聞いています。できれば、迅速に動きたいと思っています。

稲村 計画を作り込むことが目的化しないように、手段が目的化しないように、気を付けていただきたいと思います。

次第を先に進めます。

先の議会で、生涯学習プラザの設置及び管理条例も議決をいただきました。地域振興体制の再構築もまだまだ試行錯誤中ではありますが、少しずつ前に進んでいるところです。

事務局 (資料説明)

稲村 かねてから議論になっておりました社会教育の中身を市長部局においてどのように担保し、充実させていくのかということについて、現行の社会教育委員会議をさらにバージョンアップさせた形の審議会が設置できないかのご相談していました。これについても議論を詰めていきたい段階です。引き続きご意見・ご支援をお願いしたいと思っています。

濱田 先ほど不登校支援のネットワーク会議があったとのことですが、こどもの育ち支援センター等の情報を共有するネットワーク会議は、されないのですか。

森山 今は、ネットワークを作るため、担当があちこちを回っています。乳幼児の段階では保健所との関係をまずしっかり作っていかなければいけないということ、保育所や幼稚園を回ることによって、どういう連携が取れるかということの調整をしているところです。

稲村 関わりたいな、どうなるのかなと思ってくださっている関係団体の方がたくさんいらっしゃるということは聞いています。全ての団体を回れるかが分からないため、一旦関心ある方が誰でも集まれるようなオープンなネットワークづくりの

ための情報共有の場を持った方が私も良いと思っています。

濱田 こどもの育ち支援センターを立ち上げていく段階で、保健センターや医師会など、関係者が参加して情報を共有したり、検討委員会などを作ってこなかったように思います。

稲村 こどもの育ち支援センターに関わる機能は、庁内のいろいろな部署に渡っているので、その調整にかなり苦労してきました。そのため、庁外に見えない作業になってしまったということは、反省点だと思っています。

市役所の中だけで進めていけるテーマではありませんし、市役所の外でも多くの方々が支援を実践されているので、今後はともに会議をしていくのが良いかと思っています。

森山 これまでは市役所内の連携、関わり方をしっかり固めるための会議や取組が中心でしたが、いろいろな方々の協力を得て、地域にどう展開していくのかが非常に重要なテーマになっています。不登校支援をされている方々の話を聞いた時と同様、関心をお持ちの方々と情報共有できるような場を設定するということが、とても重要だと思っています。

稲村 次の報告をお願いいたします。

西野 重大事案について、現在、従来からの第三者委員の方7名と、弁護士、精神科医、臨床心理士など臨時委員4名を追加して、11名の委員の方々に調査を行っていただいております。夏休みを中心に、学校の生徒、保護者の方々に聞き取り調査を進めています。

稲村 重大事案について、不登校が長期化した事案はいかがですか。

西野 そちらの方は、現在報告書を作成している段階です。当該児童は適応指導教室にずっと通っています。今日2学期がスタートしたところですが、1学期は最初だけ休んだものの、その後は欠席もほとんどなく、順調に登校しています。

稲村 それぞれ区切りのついた時点で情報を共有してください。他に何か報告案件はありませんか。

無いようなので、事務局に事務連絡をお願いいたします。

事務局 次回の開催につきましては臨時会がなければ3月を予定しております、また改めてご案内申し上げますのでよろしくをお願いいたします。事務局からの連絡事項は以上です。

稲村 以上をもちまして、今年度の第1回総合教育会議を終了いたします。

以 上